



2019年1月 発行

尼崎市立尼崎双星高等学校

図書委員会



[ギリシャ語で 読みはアフト 意味は本]

～世界をスケール感で想像する～

地球をテニスボールの大きさ（直径6.7cm）に縮め、

あなたの手のひらに置いたと想像してみよう。

月は2mの距離のあるビー玉（直径1.8cm）である。

金星は220mの距離にあるもうひとつのテニスボール（直径6.4cm）。

火星は390mの距離にあるピンポン球（直径3.5cm）。

水星は480mの距離にあるプチトマト（直径2.5cm）。

太陽は730mの距離にある二階建て住宅ほどの大きさの玉（直径7.3m）。

木星は3.3kmの距離にある大きめのバランスボール（直径73cm）。

土星は6.7kmの距離にある一回り小さなバランスボール（直径61cm）。

天王星は14kmの距離にあるバスケットボール（直径27cm）。

海王星は23kmの距離にあるもうひとつのバスケットボール（直径26cm）。



これらの世界まで新幹線の速さ（時速300km）で行くなら

どれだけかかるか。

月までは53日かかる。

金星までは16年。

火星までは28年。

水星までは35年。

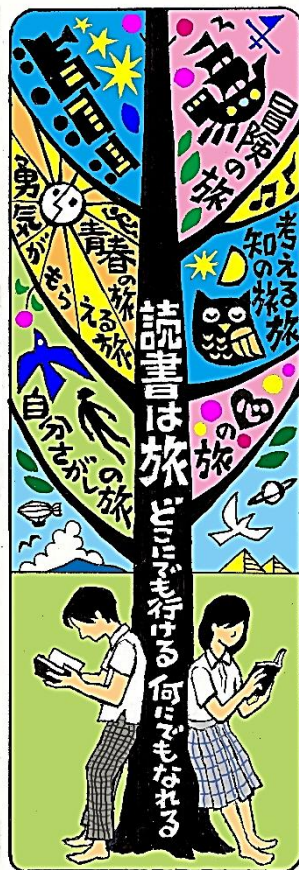
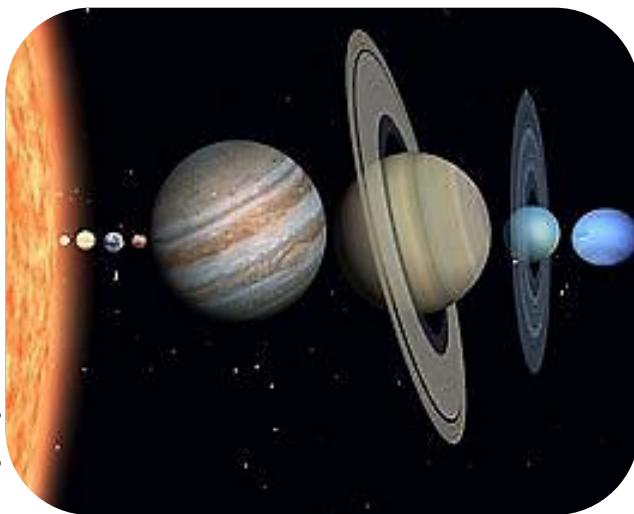
太陽までは57年。

木星までは240年。

土星までは480年。

天王星までは1000年。

海王星までは1700年。



地球は秒速30kmの速さで太陽の周りを公転している。

秒速30kmの速さとは、大阪—東京間（約500km）を16秒で通り抜けるスピード。

その地球に「乗っている」私たち。

[出典] 『宇宙に命はあるのか～人類が旅した一千億分の八』 小野雅裕/著

『科学の世界をスケール感でつかむ』 小谷太郎/著

～読書と健康寿命～

校長 谷 清 隆

のべ 41 万人の高齢者のデータを元に AI が解析すると、健康寿命を延ばすには「運動よりも食事よりも読書が大事」という驚きの結果が出ました。これを裏付ける例としてでていたのは、山梨県民の生活習慣です。山梨県は、「健康寿命」の長さが 1 位、「運動・スポーツ実施率」は最下位。注目すべきは、山梨は「人口に対する図書館の数」が全国 1 位という点です。全国平均が 2.61 館なのに対し、山梨は 6.59 館と多く、「本を探すことでいい運動になる」「知的な刺激を受ける」「記憶が呼び覚まされる」多面的に健康寿命に効果的とみられる特徴が分かりました。

米・イェール大学の研究論文「読書と長寿の関連性」によると、50 歳以上の約 3600 人を対象にした 12 年間の追跡調査から、「読書習慣のある人は、無い人に比べて 23 か月寿命が長い」という結果が出ました。しかも、「性別や健康状態、財産、学歴に関係なく、純粋に本を読むことが長寿につながった」と結論付けられていました。

オックスフォード大学が 2013 年に発表した「10 年後になくなる仕事」には「データ入力作業員」「電話販売員」「検査作業員」などが挙げられていました。一概には言えませんが、単純作

業やマニュアル化された仕事は AI やロボットが代行できるでしょう。「長い文章を読む力」をみにつけていれば、たとえ AI に仕事を奪われても、自分で本を読み、新しいテクノロジーや考え方を吸収して変化の早い時代に対応していけるのです。

読書が苦手な人は長文を読み慣れていません。ツイッターや LINE、インスタグラムなどの文章はコマ切れだから、読解力が身につかないのでしょうか。読解力をつけるには、やはり長い文章を読み込み、さらにそれをある程度長い文章で書くトレーニングが必要です。世の中の仕事には、大きくわけて長い文章を読んで書く必要のあるものと、その必要がないものがあります。近い将来、多くの仕事が AI に奪われるといわれています。AI に奪われないのは、コミュニケーション能力や臨機応変さといった能力が求められる仕事とされています。

AI に仕事を奪われず、健康な生活のために読書で読解力を養い、きちんと相手に伝えることができる会話によって、説明する力や、コミュニケーション能力を身につけるために、皆さん、是非とも図書館に立ち寄って、すばらしい人生を送ってください。

先生からのおすすめの本

彼が通る不思議なコースを私も

白石一文/著 集英社文庫

この作品は「自分が自分を好きでいられることの大切さ」を教えてくれる一冊です。ふと自分ではない誰かを羨ましいと思ったり、比べてしまったり…そのような時に否定せず受け入れてあげられるのは他でもない世界でたった一人の自分です。衝撃的な場面を目の前にして出会った二人の主人公が「生きる」ことの難しさと素晴らしさ、出会いがもたらす必然と偶然を優しい物語で紡いでいます。ぜひ手にとってみて下さい。 角田 あかり 音楽科

サラバ! (上・中・下)

西 加奈子/著 小学館文庫

「あなたの信じるものを誰かに決めさせてはいけない」。複雑な家庭環境のなか、自分自身の人生を「誰かのせい」にしながら生きる主人公。奇行を繰り返す姉、自由奔放に生きる母、優しい父。誰もが自分の「信じるもの」のために生きていることをやがて知り、最後には自分の信じるもの、芯になるものを見つけ出す。アメトークでピース又吉も絶賛した作品です。みんなが「信じる」何かを見つけるきっかけになるかもしれませんよ。

後井 文明 地歴公民科

海嶺 (上・下)

三浦綾子/著 朝日新聞社

遭難、漂流、奴隷、帰還、砲撃…。この小説の主人公音吉は、どんなに過酷な状況でも誠実で賢明な青年です。彼の考え方や生き様は読む者に力を与え、14ヶ月の漂流で生き残ったことや奴隷生活から救出されたことが決して幸運だけではなく、彼の人間性が引き寄せたのだと感動を覚えます。そしてこれは江戸時代の実話で、音吉は聖書を初めて日本語に翻訳した実在の人物だと知ったら…皆さんはもう『海嶺』を読むしかありません。 守田 淑子 国語科

はしゃぎながら夢をかなえる世界一簡単な法

本田晃一/著 SBクリエイティブ

私は生きていく中で、一番大切なものは自信だと思っています。そこで今日は日本一ハッピーだと思われるおじさんの本を紹介します。

「だめな自分にOKを出す」「人は長所で尊敬され、短所で愛される」ここからわかるのは、できなくても、みんなはありのままに価値があること。自分を認めることが夢への第一歩です。続きが気になる人は、2年5組のウラタ文庫に置いているので、いつでも借りに来てくださいね。

浦田 優花 英語科

落語は素晴らしい

月亭方正/著 ヨシモトブックス

兵庫県出身、タレントから落語家になって10年になる月亭方正さんが書いた本です。落語は面白い話だけではなく感動する話もあります。『井戸の茶碗』『しじみ売り』『阿弥陀池』など15本のあらすじ解説、落語をしている場面の写真もあり、会場の雰囲気伝わってきます。コンサート会場で聴く音楽と録音された音楽の違いのように、落語もライブの方がより楽しめます。読書や落語などの親しむきっかけになればと思います。

山 大玲 理科

心を整える

勝利をたぐり寄せるための56の習慣

長谷部 誠/著 幻冬舎

何をするにしても、そこへ向かうための「準備」が大切である。100人いれば、100通りの考え方や物事の見方、そして人生があります。落ち着いて考え、そして思考し行動に移す。色々な人の思いに心をかたむけ、人間力を高めて下さい。そのような一冊なるのではないのでしょうか。

山崎 篤史 ものづくり機械科

論理的思考力を鍛える33の思考実験

北村良子/著 彩図社

タイトルから難しそうな本だと感じるかもしれませんが、全くそんなことはありません。ある特定の条件の中で、考え方のヒントをもらいながら、自分で問題について考える本です。中には、明確な答えがない問題もあります。まさに、それは社会で遭遇する問題と同じだと感じます。これからの社会へ出る皆さんに是非読んでもらいたいと思います。

松阪 直洋 数学科

AIの時代「新しいこと」を考え出す人の時代

ダニエル・ピンク/著 三笠書房

情報化社会が進み、AIの時代になり次に日本人がこれから身につけなくてはいけない「右脳を生かした全体的思考能力」「新しいものを発想していく能力」次世代を生きぬくために必要な六つの感性の磨き方について、この本は書いています。家庭科の授業の最初に人生プランを考える時間がありますが、自分の人生の物語を考え、先を読みとり、ハイコンセプトな時代にどう生きていくか参考にとすると良い一冊ではないかと思っています。

河合 伊紅美 家庭科

「決断、そして行動へ」

書名「君たちはどう生きるか」

1年3組 青木 陽香

人生、いかに生きるべきか。人は生きていく中で数知れない決断をし、そして行動する。私は十六年の人生を歩んできたが、これまで自分がしてきた決断や行動は全て正しかったと胸を張って言えるだろうか。いや、全くそうとは言えない。私は今まで、数々の間違っただけの決断や行動をしてきた。また、その度に後悔の念が押し寄せてきたのだ。そのようなことを繰り返していた私が出会った本が、『君たちはどう生きるか』だった。

この本の登場人物である、コペル君、浦川君、北見君、水谷君の四人はある日、上級生が北見君を殴ることを計画しているという噂を耳にする。そこで、コペル君、浦川君、水谷君の三人は北見君と一緒に殴られることを約束した。そして、その事件は実際に起こってしまう。浦川君と水谷君の二人は真っ青な顔になり、ブルブル震えながら、それでも北見君を守って立ちほだかった。だが、コペル君は目の前の光景のあまりの恐ろしさに身がすくみ、何もすることができなかつた。コペル君は、約束を破ってしまったことをひどく後悔し、半月もの間、寝込んでしまう。

私の高校生活初めての夏休みが始まった。部活動や夏期講習があり、私はいつもより少し遅めの朝の電車に乗った。電車の中は、制服を着た人の姿はあまりなく、普段よりも空いていた。いつもは座ることのできない座席に座り、しばらくの間、のんびりと時間を過ごしていた。次の駅で停まり、扉が開いた。そこへ小さな子供を二人連れた男性が、私がいる車両に乗り、そして私のすぐそばに立った。私の左隣りには一人分の座席が空いていたため、しばらくして子供二人のうち一人は、そこに座った。だが、もう一人は座るところがなく、立ったままだった。譲らなくてはならない、ということは、とくに頭では分かっていた。だが、知らない人に声を掛けることへの抵抗と、上手くタイミングをつかめないことが、私の行動の邪魔をしたのだ。しばらくの間、どうして良いか分からずに、私はただただ下を向いているばかりだった。そんな私の脳裏にふと、この前の出来事が浮かんできた。

その日の学校帰りの電車では珍しく座席が空いていたため、座ってほっと一息ついていた。途中の駅で停まり、扉が開いた。そこへ七十代くらいであろうか、お年寄りの女性が私と同じ車両に乗り、そして私のすぐそばに立った。

席を譲るべきであることは分かっていたが、しかし、周りの目が気になり恥ずかしさもあって行動に移せずにいた。意を決して電車から降りる数分前に席を離れたのだが、もう少し早い段階で行動に移せば良かったと後悔した。

「また過ちを重ねちゃいけない。コペル君、勇気を出して、ほかのことは考えないで、いま君のすべきことをするんだ。過去のことは、もう何としても動かすことは出来ない。それよりか、現在のことを考えるんだ。」

これは、コペル君が叔父さんに相談したときに言われた言葉だ。これらの言葉を受け、コペル君は北見君たちに手紙を書いた。何日か経ったある日、北見君、水谷君、浦川君がコペル君の家に来て、前のような仲に無事、戻ることができた。

コペル君が気付いたように、私も同じ過ちを繰り返してはいけない。自分自身の過去の失敗から学び、「今」を変えなくてはならない。

今すぐに、勇気を出して座席を譲らなくては。

「どうぞ。」そう言って、私は席を離れた。

すると、男性は満面の笑みを私に向け、礼を言ってくれた。勇気を出して譲って良かったと心から思えた瞬間だった。

勇気を出して行動に移す。このことは決して簡単ではないということに改めて実感した。

だが最近、あるテレビ番組を見て、自分の中のそのような常識が覆される思いがした。私があるとき見たのは、実際に日本で起きた、クマが多くの人々を襲った事件を再現した映像である。大切な仲間がクマに襲われているところを見た人々は、どのような行動に出たのか。そこには迷いなどなく、自分の身にも危険が及ぶような行動を自らとる姿があった。その姿からは、仲間を助けたいという気持ちだけがあふれ出ていた。次に襲われるのは自分かもしれないにも関わらず、仲間のことを第一に考えるその姿には、私が今まさに難しいと感じていたことを成し遂げる勇敢さがあった。

人は生きていく中で、もしかするとコペル君のように「怖い」などと感じ、勇気が出せないことがあるかもしれない。しかし、自分のことだけを考えて行動することは自分が後悔することになると思うし、相手もいい気分にならないだろう。まずは、日常の中での小さなことでも、勇気を出して相手のことを考えた行動を常にとれる人でありたい。

「私の人生」

書名「20代にしておきたい17のこと」

2年8組 御船 聖可

この本の中で、筆者が最も言いたかったことは、人生をどのようにして幸せに生きるのか、またその幸せとは何なのかということだったのではないかと思っています。幸せかどうかを感じられるのも全ては自分次第だと言っているような本でした。

この本によって学べたこと、素晴らしいなど感銘を受けたことが教え切れないほどあります。まず一つ目が、人生最大の失敗をするということです。私がこの文章を見て思ったのは、「失敗なんてしたくない」という不安でした。失敗は恥ずかしいことだ、悪いことだどこか植え付けられている部分があったのです。しかし読んでみると、目を見張るような活躍をするためには目を覆うような失敗も恐れずにいることだとあり、道を築いていくためには代償を伴うことがあってもいいのだと安心しました。無謀さが多少あろうとも成功者は皆そうだったのだろうと考えると、リスクを冒して失敗することは決して悪いことではないと気付きました。

二つ目は、一生付き合える親友を見つけるといことです。これは豊かな人生に必要なことではないかと実感しています。私には親友と呼べる人がいます。あるときは自分を支え、またあるときは自分を高めてくれる良いライバルとなってくれます。読み進めていくうちに、ずしっと私の心に直接語りかけてくるような文章がありました。それは、「自分の命をかけて信じられる存在」でした。私はこのようなことを深く考えたことがありませんでした。この文章に出合った時、自分は親友を信頼できているかどうかと疑いました。なぜなら、一瞬、戸惑いができて裏切ったような気持ちになったからです。それがきっかけで読む前と後では考え方が変化し、親友はかけがえのない存在であると同時に勇気を与え、与えられる存在でもあると確信しました。

三つ目は、人生が変わる本と出合うということです。私がよく親から聞くのは、「若い時にもっと本を読んでおけばよかった」という後悔です。私は本を読むことで人間性が形作られていくことも当然あるのではないかと考えています。ものの見方や感じ方、また人間観というものも本から培われたと感じるときがあります。だから自分の人生を大きく変えてくれる本といかに出合うか、それはとても大事であることを改めて確認できました。もっとたくさん本と出合おうとすることでまた新しい知識を得てものの見方が広がっていくので、これは役に立つ内容だと思えます。

四つ目は、学びのプロセスに無駄なものはないということです。筆者も、本に限らず出会いは全てその人のふだんの生き方の反映だという言葉を読んで、本当にそうだなと共感を覚えました。なぜなら、誰と出会うかによってその人の人生は全く違ったものになるからです。私はそれに興味をひかれました。さまざまな分野を吸収することって何か楽しそう、と、この本を通して思えるようになりました。良いか悪いかを吟味するよりも、とりあえず触れてみようとするところから始める。そこから分かることもたくさん出てくると知って、当たり前のようにだけれども無駄なことはないのだと強く感じました。

五つ目は、質問力を鍛えるということです。それは自身に対してで、自問自答を意識することです。例えばピンチに陥ったとき、落ち込んだ人は、良い解決策を思いつくことができません。ところが心が柔軟で自由な人は、ピンチから学べることは何かと自問することで解決につながる考えが導き出せます。いい質問をすることは大事だと読んで、もしピンチに陥ってしまうことがあったとしたらこの方法を試してみようと思ったと同時に、友達にも教えてあげるべきだとも思いました。

最後は、直感を信じてチャンスをつかむということです。それは、「試してみる価値はある」という挑戦する意志に溢れた言葉です。私はこの言葉をとても気に入っていて、これからの大切にしていこうという思うものの一つです。雑音に惑わされず、自分の直感を信じることを大事にして欲しいと筆者は述べていて、それは失敗は挽回できるから、安心して自分を信じてくださいと言っているようにも読み取れました。

全てのことに共通して言えるのは、自分の人生は自分で創っていて、幸せになるために一つ一つの行動をしていくということです。つまり幸せは自分からつかみに行かなければならないということです。私はこの『20代にしておきたい17のこと』を通して、自分の思う未来が少し見えてきた気がしています。毎日が選択の中でどのように生きていくのか、または今後自分自身で幸せをつかむためにどう人生を築くのかを、この本から得られたことやこれから学ぶことを強みにして考えていくことでできればと思っています。人生について考えさせられたこの本は、心に残る私にとっての先生なのかもしれません。

◆◆◆◆◆ この作家が好き！ **山田 悠介** の巻 ◆◆◆◆◆



----- おもな作品 -----

- 『リアル鬼ごっこ』2001
- 『スイッチを押すとき』2008
- 『キリン』2009
- 『名のないシヤ』2011
- 『パラシュート』『ライブ』2013
- 『僕はロボットごしの君に恋をする』2017

山田悠介（東京出身・1981年生まれ）という作家をご存じでしょうか。私は、この作家が一番大好きです。数ある作品の中でも1番お気に入りには『親指さがし』と『スイッチを押すとき』です。あまりピンとくる人は少ないと思います。やはり、誰でもなんとなく聞いたことがあると感じる彼の代表作（デビュー作）は『リアル鬼ごっこ』ではないでしょうか。少なからずピンときた人はいると思います。映画化もされた作品です。なんと『リアル鬼ごっこ』は、彼が高校時代のアルバイトでためたお金の祖母から借りたお金を足しての自費出版なのです！自費出版の理由としては、「両親や友人に見せるのは恥ずかしい」というものでした。刊行から半年ほどで1万部を突破し、累計で100万部を超えるヒット作となりました。その後も、サバイバルやデスゲームもののホラーを中心に作品を手掛けてきました。「作品にメッセージを託すことはない」と語る彼が、唯一「命の大事さを伝えたかった」と述べる『スイッチを押すとき』では、自分の命で握る恐怖や苦しみに立ち向かう子供の心情をリアルに描いており、中高生や大人の方には、読んでいただきたい作品です。（3年 大川 日奈）

◆◆◆◆◆ この作家が好き！ **住野 よる** の巻 ◆◆◆◆◆



----- おもな作品 -----

- 『君の臓腑をたべたい』2015
- 『よるのばけもの』2016
- 『また、同じ夢を見ていた』2016
- 『か「」く「」し「」ご「」と「』2017
- 『青くて痛くて脆い』2018

『君の臓腑をたべたい』でおなじみの住野よるさんのこの作品は、とても人気があって、今では小説の他にもアニメ映画化、実写映画化、漫画化もされています。私は中学3年生の時、この本に出会いました。タイトルがとても衝撃的で、読んでみたいと思わせるように上手くつけられていると思います。人とコミュニケーションをとらなかった主人公が、ある日たまたま、クラスメイトが病気であることがつづらけた『共病文庫』を拾ったことから、それまで何事もなく過ぎていった日常が変わっていきます。また、クラスメイトであり、『共病文庫』の持ち主である咲良と関わっていくうちに、主人公の気持ちや人に対する思いが変わっていくのが、本を読み進めていくうちに分かってきます。最終的に咲良は死んでしまいましたが、私はこの本に、大切なことを教えてもらいました。家族や友人、大切な人が当たり前にくれている今だからこそ、是非皆さんに一度読んでもらいたいと思います。（2年 根井 楓佳）

★★★★★この作家が好き！ **細田 守** の巻 ★★★★★



----- おもな作品 -----

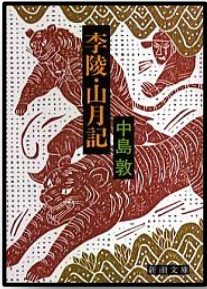
- 『時をかける少女』2006
- 『サマーウォーズ』2009
- 『おおかみこどもの雨と雪』2013
- 『バケモノの子』2015
- 『未来のミライ』2018

有名な作品としては『サマーウォーズ』など、細田守（富山出身・1967年生まれ）さんの作品は年齢層が広いので多くの人に親しまれています。細田さんは、他の人の作品にも参加しています。原画では、「ドラゴンボールZ」や「セーラームーン」「ゲゲゲの鬼太郎」などの有名作品にも参加しており、演出・絵コンテでは、「るろうに剣心」や「デジモン」「ワンピース」などの作品にも参加しています。皆さんがよく知っている、ジブリ作品「ハウルの動く城」の監督として参加していたらしいですが、母親が亡くなったり、トラブルがあり、監督から外れ、ジブリからも離れるなど、色々な悲しい出来事があっても、作家をやめないところに、心をひかれました。そんな細田さんの作品で個人的に好きな作品は、2018年に出版された『未来のミライ』です。どこか、子供の時にあったような話であったり、細田さん作ラノベ必須のファンタジー感溢れる作品でした。細田さんのアニメ映画作品は、細田さん自身の人生経験や家庭環境などがモデルとなっているそうです。細田守作品を一度読んでみてください。（1年 浦野 琳太郎）

◆◆◆◆ この作家が好き！ 中島 敦 の巻 ◆◆◆◆◆

作家生命半年 33 歳で夭折した文豪の虎・天才作家：中島 敦 1909～1942

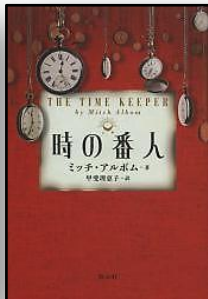
情熱的な和歌や古代ペルシャの物語など、好奇心旺盛な人柄を想わず魅力的な作品が多い。人はいかなる時に、人を捨てて畜生に成り下がるのか。中国の古典に想を得て、人間の心の深奥を描き出した『山月記』。母国に忠誠を誓う李徴の苦難と運命を描く『李陵』など、短かった生を凝縮させた緊張感みなぎる名作を残した。



私は、小説など読むのが苦手だけど、アニメなどで、出てくるキャラクターを知りたくて読んでみるとそのキャラクターと似ている場面があります。『文豪ストレイドッグス』というマンガの中に出てくるキャラクターで、中島敦ストーリーを知りたくて、教科書の中にあつた『山月記』を読みました。そこで気づいたことが、『文豪ストレイドッグス』の中島敦の原点が『山月記』だったことです。漫画と小説を照らし合わせると、『山月記』の李徴と『文豪ストレイドッグス』の中島敦が同じ人物になります。李徴は、詩で名を残そうとしたけど出来ず、『文豪ストレイドッグス』の中島敦は、孤児院でシスターたちに自分を認められたいけど、暴力を振るわれてしまっているのが同じ背景なのです。漫画と似ていると思う場面は何か所か出てきます。少しでも気になった方や、文豪が好きの方は、図書館にあるので、読んでみてください。（3年 片山 結渚）

----- おもな作品 -----
『山月記』『光と風と夢』
『弟子』『李陵』

◆◆◆◆ この作家が好き！ ミッチ・アルボム の巻 ◆◆◆◆◆



皆さんは、ミッチ・アルボムという作家を知っていますか。あまり知らない人が多いのではないのでしょうか。そこで、今回ミッチ・アルボムという作家（1958年生まれ アメリカ）を紹介したいと思います。

ミッチ・アルボムは、1977年、不治の病に侵された大学時代の恩師との二人だけの授業を綴った『モリー先生との火曜日』という本を発表後、アメリカで600万部を超えるなど、世界的なベストセラーを生み出した作家です。主にノンフィクションを書いていることが多いのですが、もう一つ有名な『天国の五人』は、初めてのフィクション作品として出版されました。ミッチ・アルボムの作品は、一度読めば彼の作品がとても好きになってしまう魅力的なものばかりです。私達が日常のどこかで求めているけれど、あきらめているような愛や希望を、彼は何も恐れずに追及し、そして読者である私達に教えてくれます。一度、ミッチ・アルボムを手にとってみてはいかがでしょうか。（3年 和田 日向子）

----- おもな作品 -----
『モリー先生との火曜日』1998
『天国の五人』2004
『もう一日』2007
『時の番人』2014
『天国からの電話』2015

◆◆◆◆ この作家が好き！ アレックス・シアラー の巻 ◆◆◆◆◆



イギリスの作家。1949年生まれ。29歳のときに書いたテレビのシナリオが売れて作家活動に専念。14年間ほどテレビ、映画、舞台、の脚本などを書いた後、数多くのヤングアダルト小説を執筆してきた。日本で初めて紹介された『青空のむこう』は、爽やかな感動を与えた。突然の事故で死んでしまった少年ハリーは、ある時、「やり残したことがあるから」と、青空のむこうから地上に降りてくる。生きている今が大切であることを伝えてくれる。『13カ月と13週と13日と満月の夜』は、主人公の少女が魔女に体をのっ取られて、自分の体を取り返そうと魔女に立ち向かう。少し怖くて、ハラハラドキドキの冒険物語。2009年にアニメ映画化された『チョコレート・アンダーグラウンド』の舞台はイギリス。選挙で勝利をおさめた“健全健康党”は“チョコレート禁止法”を発令する。そんな法律に戦いを挑む少年たちの痛快小説。2017年の最新作『ガラスの封筒と海と』船乗りの父を海で失った少年が、ビンに手紙を入れて海に流して返事を待つ。不思議な体験を経て一歩大人に成長する。爽やかな感動と大切なことに気づかせてくれるシアラー作品を、ぜひ読んでください。（図書部 武内 司郎）

----- おもな作品 -----
『青空のむこう』2002
『13カ月と13週と13日と満月の夜』
『魔法があるなら』2003
『チョコレート・アンダーグラウンド』2004
『スノードーム』2007
『This is the Life』2014
『ガラスの封筒と海と』2017

生徒からのおすすめ本

バッタを倒しにアフリカへ

前野 ウルド浩太郎/著 光文社

僕が皆さんにおすすめしたい本は、前野ウルド浩太郎さんの『バッタを倒しにアフリカへ』という本です。前野さんは子供の頃からの夢である、「バッタに食べられたい」を叶えるために、研究者としてアフリカに行きました。しかし、現実はそう甘くなく、壁が立ちはだかります。前野さんはその壁を必至に努力した末に突破します。ピンチの時こそ前向きに考える。こんなメッセージが隠されているかもしれません。一度読んでみませんか。 (1年 男子)

かがみの孤城

辻村 深月 /著 ポプラ社

とある事件をきっかけに学校へ行けなくなった主人公は、長い間籠城し続けた。

ある日、部屋に佇む姿見が光だし、オオカミの被り物をした女の子に誘われる。そこには、自分と似た境遇の男女6人がおり、約1年間のゲームに巻き込まれる。

読み進む中で明かされていくゲームの真相や自分たちの共通点。待ちうける悲しい秘密、そして優しい約束。皆さんは大切な人のためにどれだけ人生を変えることができますか。 (3年 女子)

空の境界 (上・中・下)

奈須 きのこ/著 講談社

この作品は理解することが難しいです。異質な世界観と人物達、意味不明な言葉の数々。そのすべてに魅力を感じました。一度すべて読んだら時系列順に読んでみてもおもしろいと思います。映画もありますが、こちらは演出がとても素晴らしいです。ぜひ観て、読んでみてください。 (2年 男子)

15歳、終わらない三分間

八谷 紬 /著 スターツ出版文庫

何気ない日常、空気のように過ごす毎日。そんな日々には疲れたことはありませんか？この本に登場する人物は全員高校一年生で、ちょうど今頃の時期のお話です。そして、毎日を消化するように生きていく主人公が四人のクラスメイトと共に閉ざされた教室から出る青春小説です。この本は、ただ生きていくだけの日々、ほんの少しの意味を教えてください。 (1年 男子)

未来のミライ

細田 守/著 KADOKAWA

主人公「くんちゃん」が、自分の家族の未来・過去に行き、いろいろなことを学んで、成長していくファンタジーな日常の話です。未来・過去はすぐに行けるわけではなく、何か訳があって急に行っているのですが、その何かの訳が、子どもらしい、なにか自分にも思いあたる部分があり、話の中で、自分をふり返ってしまうような話です。映画もよいですが、原作も読んでください。 (1年 男子)

あの夏、二人のルカ

菅田 哲也/著 角川書店

あの夏、本当は何が起きたのか。——
東京に戻ってきた遥と、ギタークラフト店の乾と、高校生の久美子の話がつながっていくところが読んでいて おすすめです。最初は、高校生の久美子の話が関係なさそうに見えるのに、最後の方まで読んでいくと、この本の大切な部分だということがわかります。 (1年 男子)

人間失格

太宰 治/著

私のお気に入り、太宰治の最後の小説『人間失格』です。好きになったきっかけは、文豪ストレイドックスに出てくるキャラの推しだからです。小説を読んでみると、ありえないことだけど、なぜか続きが読みたくなる本なのです。この小説の中で出てくる名言で「恥の多い生涯を送ってきました」という言葉がとても素晴らしいと思いました。少しでも興味を持った方は、図書館にあるので一度読んでみてください。 (3年 女子)

君の臍臓をたべたい

住野 よる/著 双葉社

私たちは普段、特に大きな怪我や病気もなく、健康に生活をおくれていると思いますが、もし、皆さんの大切な人があと少しで死んでしまうと分かったら、どうしますか？ この本は、家族や友人、好きな人と何気なく日常をすごせることが、どれほど大切なのかを教えてくれる本です。文字ばかりだと難しい場合には、漫画も出版されています。是非一度、手に取って読んでみてください。 (2年 女子)

図書館利用の統計

2018年度

学年別貸出統計

| | 開館日数 | 利用者数 | 総貸出冊 | リクエスト | パソコン利用 |
|-----|------|-------|-------|-------|--------|
| 4月 | 13日 | 320人 | 150冊 | 13件 | 0件 |
| 5月 | 21日 | 480人 | 241冊 | 8件 | 3件 |
| 6月 | 18日 | 366人 | 203冊 | 7件 | 4件 |
| 7月 | 23日 | 324人 | 287冊 | 5件 | 4件 |
| 8月 | 9日 | 112人 | 27冊 | 5件 | 3件 |
| 9月 | 15日 | 550人 | 186冊 | 11件 | 7件 |
| 10月 | 22日 | 624人 | 234冊 | 16件 | 14件 |
| 11月 | 20日 | 519人 | 256冊 | 7件 | 12件 |
| 12月 | 16日 | 199人 | 215冊 | 8件 | 5件 |
| 合計 | 157日 | 3494人 | 1799冊 | 80件 | 52件 |

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|-----|------|------|------|
| 4月 | 74冊 | 45冊 | 14冊 |
| 5月 | 95冊 | 90冊 | 30冊 |
| 6月 | 88冊 | 69冊 | 35冊 |
| 7月 | 118冊 | 78冊 | 50冊 |
| 8月 | 5冊 | 15冊 | 5冊 |
| 9月 | 112冊 | 32冊 | 22冊 |
| 10月 | 138冊 | 41冊 | 19冊 |
| 11月 | 101冊 | 52冊 | 63冊 |
| 12月 | 85冊 | 44冊 | 49冊 |
| 合計 | 816冊 | 466冊 | 287冊 |

※漫画本は貸出していません。

【授業での利用】

9月 総合学習 2回・家庭科 4回 **10月** 総合学習 4回 理科 2回
11月 総合学習 4回 理科 8回 LHR 1回
 各考査前、考査中での自主学習利用がありました。

図書委員会活動報告

三役（委員長、副委員長、書記）と1年生の代表者

- ・委員会のまとめ・企画
- ・図書館報『aftó』の発行

- 2018年
- 4月 図書委員会（第1回） 三役選出、1年生代表選出、当番決定
今年度の目標決定「本を読んで知識を高めよう！」
 - 5月 放課後の当番開始・月1回 本の整理開始
三役と1年生代表会 プレゼント企画第1弾・雑誌の付録プレゼント募集
1年生の図書委員会 各クラスで「図書館ガイド」の説明
 - 6月 三役と1年生代表会 プレゼントの抽選会・当選者発表
 - 7月 三役と1年生代表会 1学期を振り返る。夏休み中に図書館報の原案を考える。
 - 9月 図書委員会（第2回） 体育祭の役割分担決め、当番決め
三役と1年生代表会 ・図書館報『aftó』の原稿内容決定・役割分担・依頼
 - 10月 三役と1年生代表会 ・図書館報『aftó』の原稿回収
・図書館オリジナルしおり作成
 - 11月 三役と1年生代表会 ・プレゼント企画第2弾の打ち合わせ、準備
 - 12月 三役と1年生代表会 ・プレゼント企画第2弾・雑誌、付録のプレゼント実施
・「本の福袋」企画 特別貸出
・図書館報『aftó』の校正、編集

2019年 1月 図書館報『aftó』の発行